

『個別の教育支援計画』  
Q&A及び記入例  
(改訂版)

平成19年4月  
(平成20年4月改訂)

山口県教育委員会

## はじめに

障害のある幼児児童生徒の教育においては、多様化する一人ひとりの教育的ニーズを的確に把握し、適切な指導及び必要な支援を行うために、保護者と連携・協力しながら作成する「個別の教育支援計画」が重要となります。

特別支援学校においては、平成17年度に、県の統一様式によって在籍するすべての幼児児童生徒について「個別の教育支援計画」を作成し、乳幼児期から学校卒業後までを見通した長期的な視点に立ち、継続した支援や医療、保健、福祉、労働等の関係機関と連携した支援を進める上で大きな成果を上げています。

小・中学校においても、平成18年度から、地域コーディネーターが各校を巡回して「個別の教育支援計画」の作成支援を行うなど、積極的に作成を進めてきており、中学校で作成した「個別の教育支援計画」をもとに高等学校に支援が引き継がれるケースも見られるようになっていきます。

その中で、多くの地域コーディネーターや学校から、「記入例があると参考になる。」、「共通の作成の手引きがあるとよい。」といった要望があり、特別支援学校での実践等を参考にし、本資料を作成しました。

各校で作成する際には、本資料を参考にしながら、一人ひとりの幼児児童生徒の障害の種類や程度、発達段階等の実態を十分に把握し、各学校の実情に応じて作成に努めていただきたいと思います。また、地域コーディネーターの巡回相談や特別支援学校の相談支援にも活用してください。

なお、「個別の教育支援計画」の様式は、山口県教育委員会のホームページからダウンロードすることができます (<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/gyosei/kyo-shien/kobetsu/kobetsu.htm>)。

平成20年4月

教育庁特別支援教育推進室

## 目 次

### ◇ 「個別の教育支援計画」 Q&A

- Q 1 – 1 「個別の教育支援計画」とはどのようなものですか？ …………… 1
  - 2 どのような目的で作成するのですか？ …………… 2
  - 3 作成する対象は？ …………… 3
  - 4 作成の手順は？ …………… 3
- Q 2 「個別の教育支援計画」の活用状況は？ …………… 4
- Q 3 「個別の教育支援計画」と教育課程の関係は？ …………… 5
- Q 4 「個別の教育支援計画」作成の年間の流れは？ …………… 6
- Q 5 情報管理及び引継は？ …………… 7

### ◇ 「個別の教育支援計画」記入例

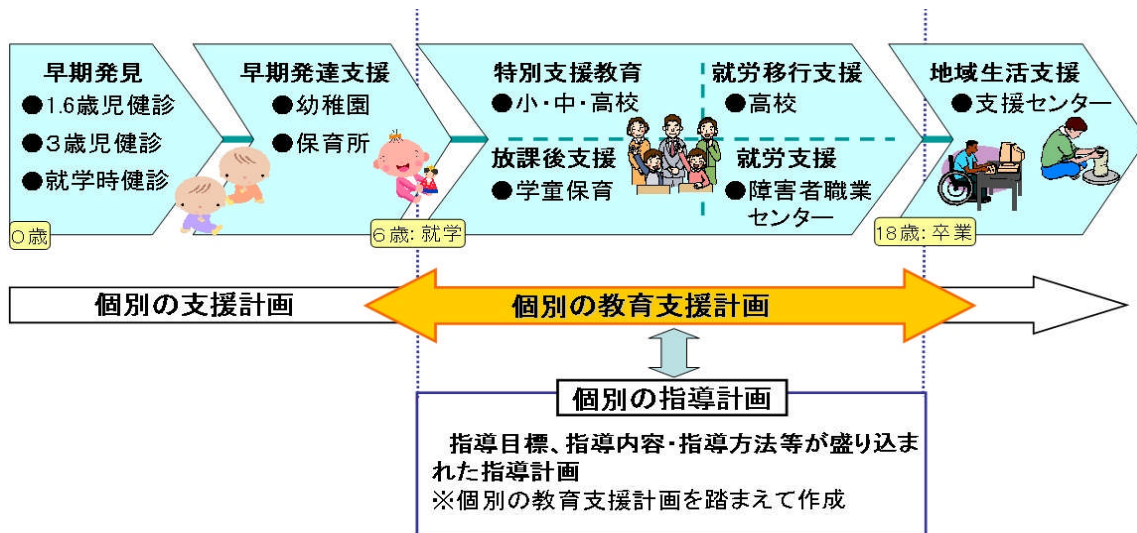
- 記入上の留意点 …………… 8
- 生育歴、療育・相談歴、児童生徒の実態等 …………… 1 0
- 心理的・医学的な立場からの意見や支援、幼稚園等からの引継事項等 …………… 1 1
- 就学に向けての引継ぎ事項、長期目標、重点目標 …………… 1 2
- (別紙 1) ○学校 (○学部) への引継ぎ事項 …………… 1 3
- (別紙 2) 関係機関と連携した支援体制 …………… 1 4
- (別紙 3) 事務所・福祉施設等への引継ぎ事項等 …………… 1 5

# 『個別の教育支援計画』



## Q1-1 「個別の教育支援計画」とはどのようなものですか？

「個別の教育支援計画」は、幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを的確に把握し、乳幼児期から学校卒業後までの長期的な視点に立って、医療、保健、福祉、労働等の関係機関と連携し、適切な指導及び必要な支援を行うための計画です。



保護者や関係機関と連携・協力して支援するための計画です。



**個別の教育支援計画**



一貫して、継続的に幼児児童生徒を適切に支援するための計画です。

### 《 個別の支援計画とは？ 》

「個別の支援計画」は、乳幼児期から学校卒業後まで生涯にわたって一貫した支援を行うための計画です。「障害者基本計画」(H14.12)の中で、「障害のある子どもの発達段階に応じて、関係機関が適切な役割分担の下に、一人一人のニーズに対応して適切な支援を行う計画（個別の支援計画）を策定して効果的な支援を行う」ことが示されました。

そして、重点施策実施5か年計画(新障害者プラン)では、盲・聾・養護学校(現特別支援学校)において「個別の支援計画」を平成17年度までに作成することとされました。

「個別の支援計画」と「個別の教育支援計画」は、概念として同じものであり、学校等の教育機関が中心となって作成する場合に「個別の教育支援計画」と呼びます。

また、一人ひとりの教育的ニーズに応じて在学中から卒業後の移行期における就労・生活等の円滑な支援を行うための、「個別移行支援計画」と呼ばれる計画も、卒業後への移行期における「個別の教育支援計画」であり、概念として同じものです。本県では「個別移行支援計画」は「個別の教育支援計画」の一部に含まれるとしています。

### 《 個別の指導計画とは？ 》

「個別の指導計画」は、「個別の教育支援計画」を指導のために具体化したもので、一人ひとりの年間目標や学期の目標等を設定し、それぞれの目標の達成に向け、指導内容・方法等を明確にして、障害の状態や発達段階に応じて適切な指導及び必要な支援を行うための計画です。学校では、「個別の教育支援計画」をもとに、「個別の指導計画」を充実させることとなります。

## Q1-2 どのような目的で作成するのですか？

「個別の教育支援計画」作成の目的は、学校における一人ひとりの幼児児童生徒の教育の充実です。「個別の教育支援計画」を作成することで、次のような効果が期待でき、指導や支援の充実につながります。

- 「個別の教育支援計画」を作成する過程で、一人ひとりの幼児児童生徒の教育的ニーズを関係者が的確に把握することができます。
- 支援の方針・内容・方法等を校内委員会等で検討し、「個別の教育支援計画」に記しておくことで、教員同士、あるいは保護者との連携による全校での支援を行うことができます。
- 学校における支援の方針・内容・方法及び評価を「個別の教育支援計画」にまとめておくことで、必要に応じて関係機関等と連携した支援を行うことができます。



「個別の教育支援計画」の作成と活用によるメリットは他にもたくさんあります。



- 「担任の先生が替わると指導の仕方が変わるのではないかと不安です。」という保護者の方の話を聞くことがあります。「個別の教育支援計画」を作成することで、一人ひとりの児童生徒に必要な支援を次の学年や学校等に確実に引き継ぐ（つなぐ）ことができます。
- 毎学年の重点目標とともに、小・中学校等の各時期における長期目標も立てることとしており、中・長期的な視点に立った支援をしていくことができます。
- 学校教育の目標や内容等を明確にして、家庭、関係機関等との連携の中で支援を行うことができます。
- 「実態把握及び目標・内容等の設定」P (Plan)、「指導及び支援の実施」D (Do)、「評価」C (Check)、「目標・内容等の改善」A (Action) というプロセスの中で、常に教育的ニーズに応じたきめ細かな支援を行うことができます。

### <おさえておきたいこと>

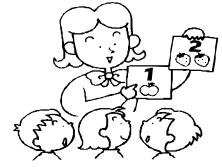
「個別の教育支援計画」は作成することが目的ではなく、全校で継続的に支援していくためのものであることに特に留意する必要があります。

幼児児童生徒が必要とする支援は様々であり、教科の学習や日常生活で多くの支援を必要とする場合や簡単な配慮事項だけでよい場合もあります。

作成に当たっては、「どのような課題があるのか。」、「どのような支援が必要なのか。」、「一人ひとりの幼児児童生徒にとって記述しておかなければならないことは何か。」等をしっかりとおさえておくことが大切です。

### Q1-3 作成する対象は？

特別な教育的支援の必要な障害のある幼児児童生徒が対象となります。



- 特別支援学校の幼児児童生徒全員が対象です。
- 小・中学校の特別支援学級及び通級指導教室の児童生徒も全員が対象です。
- 小・中・高等学校等の通常の学級に在籍し、特別な支援が必要な発達障害等の障害のある児童生徒も対象です。

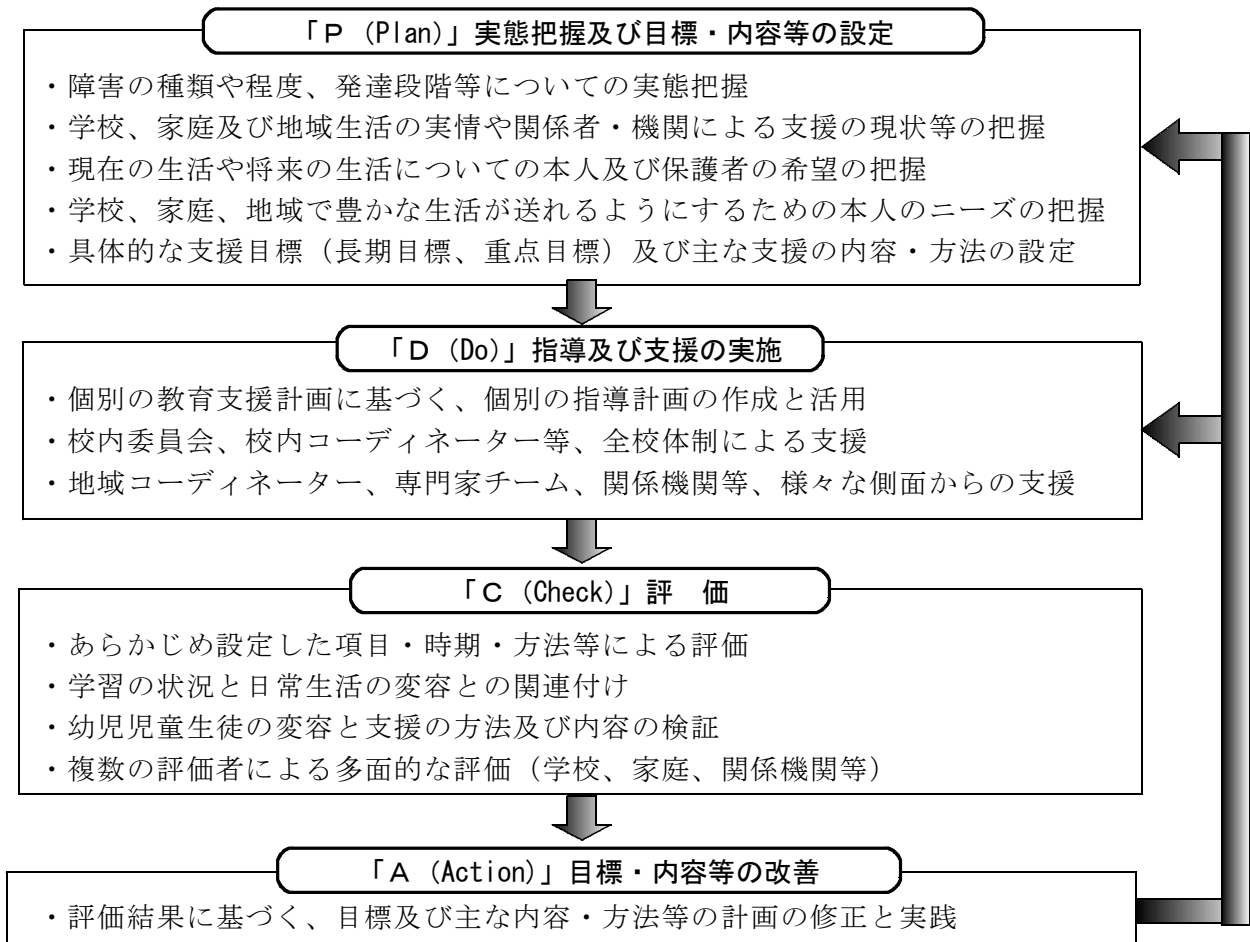
### Q1-4 作成の手順は？

作成の主体は学校ですが、保護者との連携が大切であり、作成や情報収集についての保護者の同意を得ることが必要です。

「個別の教育支援計画」の作成に当たっては、担任の負担が大きくなるように、校内コーディネーターを中心に、校内委員会で必要な支援や助言を行うことが大切です。

なお、地域コーディネーターが、小・中・高等学校を巡回して、個別の教育支援計画の作成支援や個別の教育支援計画に基づき作成される指導計画等の立案、指導方法・内容、評価等についての情報提供や助言を行います。

具体的には、以下のプロセスを進めていくことになります。



## Q2 「個別の教育支援計画」の活用状況は？

個別の教育支援計画の活用状況について、保護者や進路先等にアンケート調査を行った結果、医療機関、相談センター等の関係機関との連携の際に活用していることが分かりました。

### ○進路先から

- ・「以前は実態と異なる情報も多かったが、正確な情報を得ることができるようになった。」
- ・「面接では分からない情報を得ることができた。」
- ・「学校や家庭での目標と支援の方法が、施設等での支援を考える上で参考になった。」

### ○保護者から

- ・「子どもについて、一から説明しなくても理解してもらえた。」
- ・「学校と家庭生活の両面を理解してもらえた。」



これらのことから、「個別の教育支援計画」が、学校及び家庭と関係機関の間の支援をつなぐ上で非常に有効であることが分かります。

## 【参考】個別の教育支援計画作成の留意点

### ◆計画に盛り込む内容は？

- 個別の教育支援計画には、次のような項目があります。
  - ・ 幼児児童生徒の実態
  - ・ 幼稚園・保育所からの引継事項
  - ・ 保護者及び児童生徒の願い
  - ・ 主な支援の方法・内容 等

### ◆作成にあたっては？

- 個別の教育支援計画は、幼児児童生徒を全校体制で継続的に指導・支援するために作成するものです。
  - ・ 必要な項目を記入し、すべての項目に記入する必要はありません。
  - ・ 指導・支援を進めていく中で、随時必要な加除修正を行います。
  - ・ 担任の負担が大きくなるように、校内コーディネーターを中心に、校内委員会で作成を支援します。
- 保護者と学校が、幼児児童生徒の指導や支援の方針、それぞれの役割について共通理解することが大切です。
  - ・ 保護者と十分に話し合います。
  - ・ 情報は慎重に取り扱い保管します。

「『個別の教育支援計画』Q&A及び記入例(改訂版)」は、特別支援教育推進室のホームページにもアップロードしています。

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/gyosei/kyo-shien/pdf/sienkeikakuQ&A.pdf>



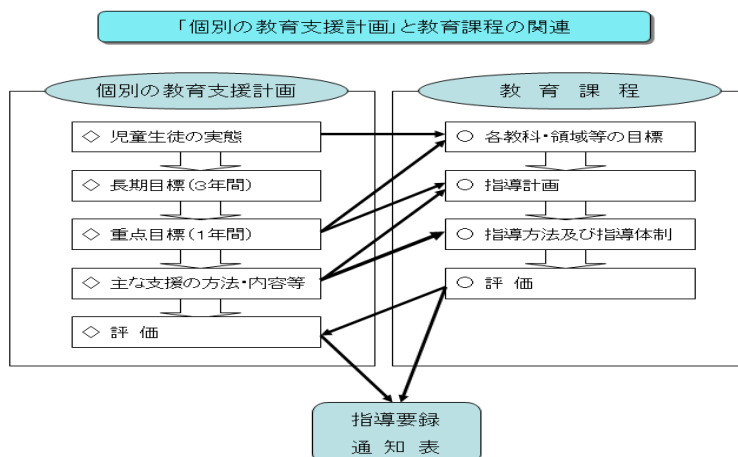
### Q3 「個別の教育支援計画」と教育課程の関係は？

「個別の教育支援計画」を作成することで、幼児児童生徒の障害の種類や程度、発達段階、学習や生活の状況、医学的・心理的な立場からの意見や支援、保護者や幼児児童生徒の願いなどを把握することができます。

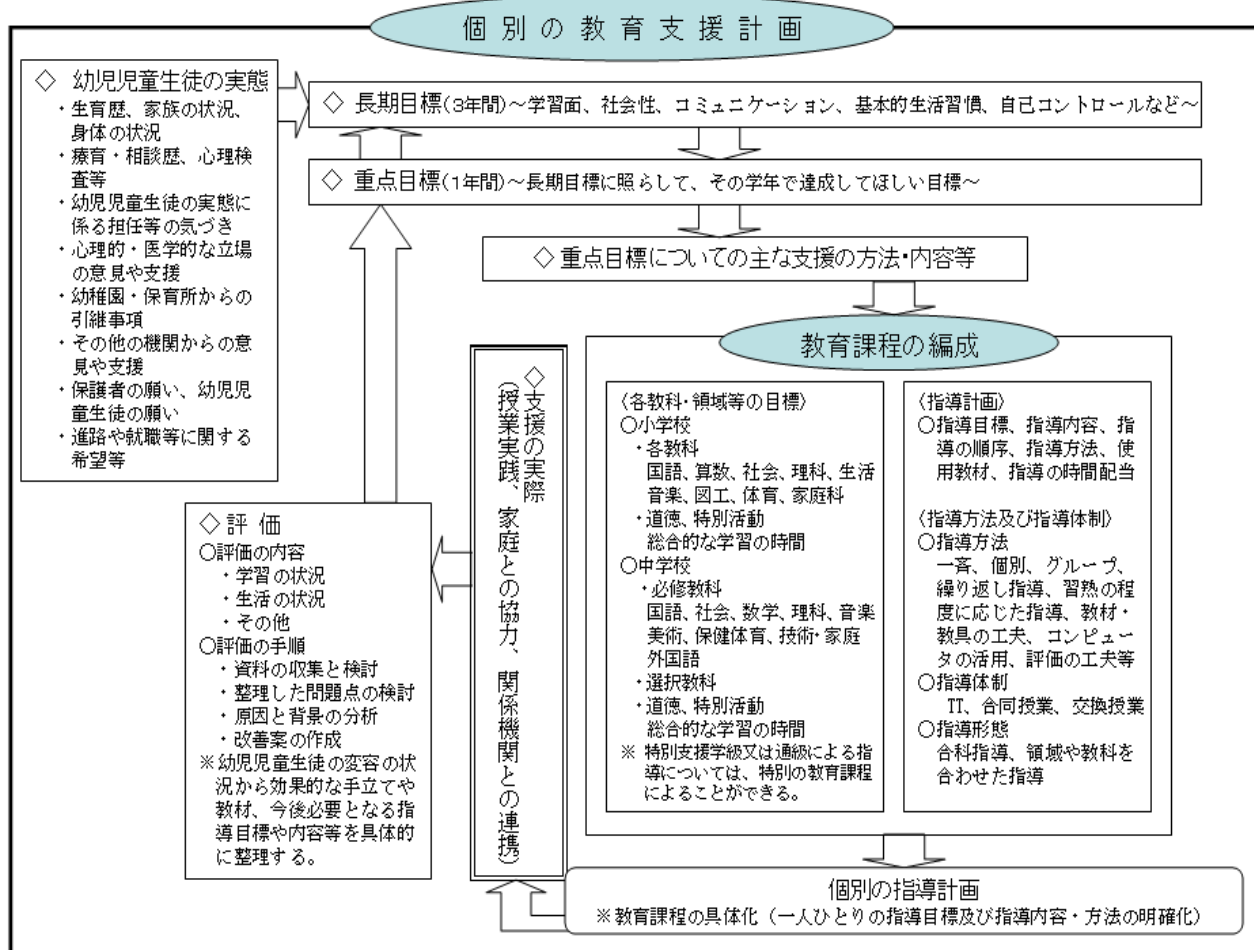
また、「個別の教育支援計画」は、長期的な視点で一貫して的確な支援を行うことを目的として作成されるものであり、「個別の教育支援計画」をもとに「教育課程」を編成して適切な指導や必要な支援を行うことは、一貫性のある継続した教育につながります。

なお、個別の教育支援計画及び個別の指導計画の評価を、指導要録や通知表の作成に活用し、総合的かつ一貫した指導と評価を行うこともできます。

参考として、「個別の教育支援計画」を活用した教育課程編成の大まかな流れを次に示します。



#### 「個別の教育支援計画」を活用した教育課程の編成

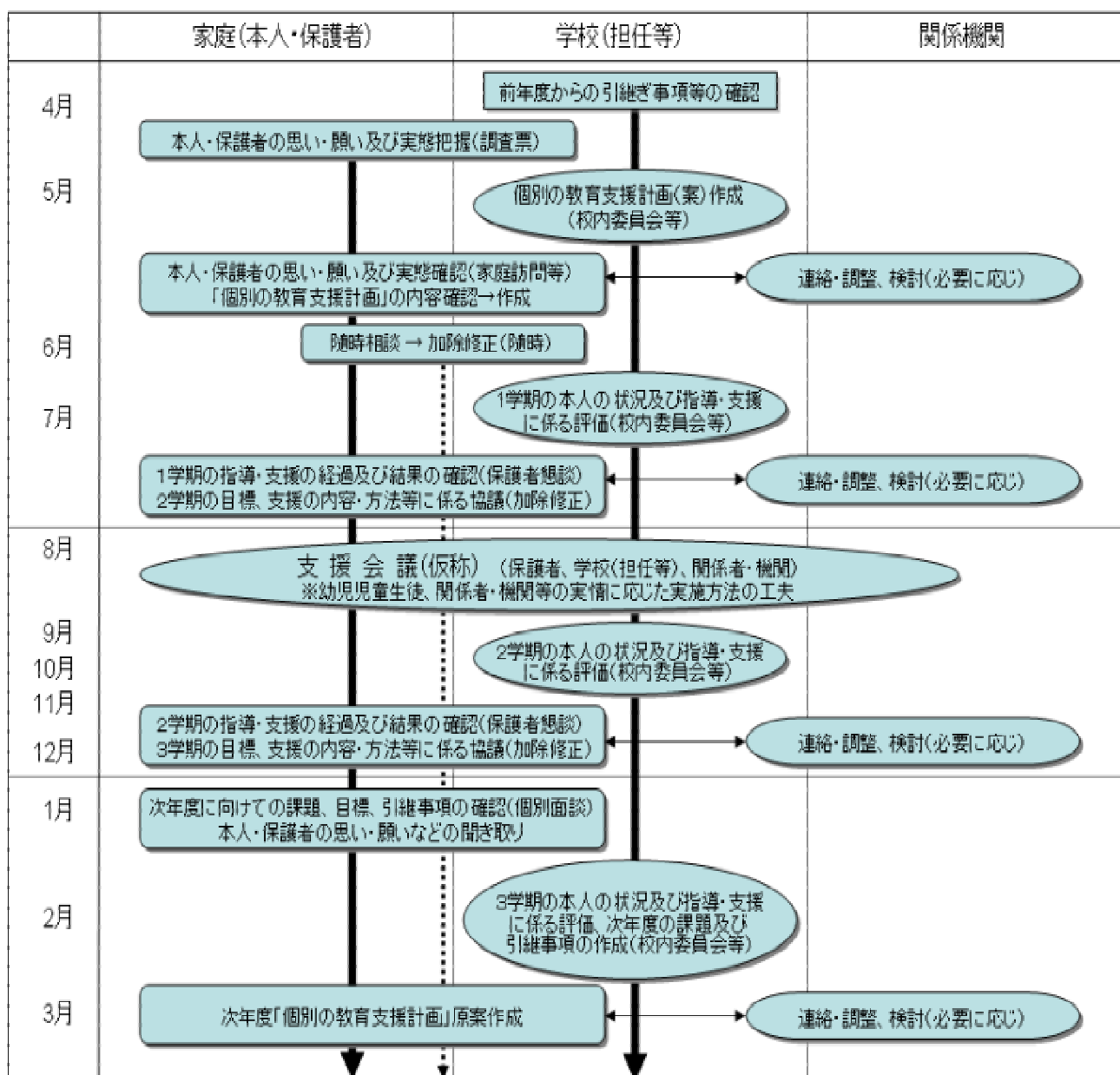


## Q4 「個別の教育支援計画」作成の年間の流れは？

「個別の教育支援計画」の作成を進める年間スケジュールの例を下図に示しました。各学校で幼児児童生徒や学校の実情に応じた流れを考える必要があります。

これまで述べたように、「個別の教育支援計画」は、担任一人が計画立案するのではなく、校内コーディネーターを中心に、校内委員会等で必要な支援について検討し、助言を行いながら作成していきますので、教職員間で作成の流れを共通理解しておくことが大切です。

なお、図の中に示している「支援会議（仮称）」は、特に関係機関と連携した支援が必要になる場合に行うものです。



## Q5 情報管理及び引継は？

「個別の教育支援計画」の情報管理及び引継に当たっては、個人情報の保護が確保され、慎重な取扱いが求められます。

学校は、作成した「個別の教育支援計画」の保管に責任を持ち、個人情報保護法や各市町における条例などの定めに従って取り扱うこととなりますので、その内容について、あらかじめ十分認識を深めておく必要があります。

### 1 保護者の作成の目的等についての理解及び同意

「個別の教育支援計画」の作成の目的、活用方法、及び保管・引継の方法について保護者に十分説明し、支援に必要な情報を関係機関から収集し、共有することについて理解と同意を得た上で作成することが重要です。

### 2 保 管

保管に当たっては、以下の点に留意します。



- ・ 保管場所を指定すること。
- ・ 一般文書と分別し、鍵のかかるロッカーや机などで保管すること。
- ・ 原則として学校外に持ち出さないこと。
- ・ 管理責任者を明確にし、一括して管理を行い、管理責任者の許可のもとに閲覧等を行うこと。
- ・ コンピュータで取り扱う場合は、インターネットや無線LAN等に接続しない環境で行うなど、情報が流出しないように万全を期すこと。
- ・ 電子化して保存する場合は、あらかじめ指定したFD等に保存し、私用のハードディスク等には決して保存しないこと。

保存期間は、指導要録の指導に関する記録と同様に5年間とします。

不要となった「個別の教育支援計画」の文書等は、シュレッダー等により廃棄し、電磁記録媒体等は、データが完全抹消できる専用のソフトウェアを利用するか、媒体自体を裁断するなど、復元不可能な状態にします。

### 3 引 継

「個別の教育支援計画」を進学先及び進路先等に引き継ぐ場合は、保護者を通して行うことが必要であり、学校が保護者の同意なしに、直接引き継ぐことはできません。

したがって、卒業時等に保護者に原本（同意書を含む。）を渡し、学校で「写し」を5年間保存することになりますが、保護者には、そのことを十分説明しておく必要があります。また、学校から引き継ぐ場合は、保護者からの委任により実施することになります。

教職員が計画等を作成するために収集した個人情報や資料は、その取扱いに慎重を期すとともに、不必要になった場合は、速やかに、適切に廃棄することが重要です。



# 『個別の教育支援計画』



## 記入上の留意点

「個別の教育支援計画」を作成することが目的ではなく、児童生徒を全校で継続的に支援していくための資料であることに、特に、留意する必要があります。

- ◇ すべての項目を記入する必要はありません。
  - ・児童生徒に適切な指導や必要な支援を行う上で必要な項目、内容のみ記入します。
  - ・いくつかの項目が空欄となったり、項目によっては、一行だけの記入となったりする場合があります。
  - ・指導及び支援を進めていく中で、随時必要な加除修正を行います。加除修正を行った場合は、その年月日を記入しておきます。
- ◇ 別紙1、2、3は、特別な事情によって作成する必要がある場合のみ作成します。
- ◇ 担任の負担が大きくなるように、校内コーディネーターを中心に、校内委員会で必要な支援や助言を行いながら作成していくことが大切です。

### 同意書について

個別の教育支援計画の取扱いには、十分に注意してください。個人情報ですから守秘義務を守ると同時に、作成に当たっては保護者の同意を得るとともに、保護者と協力して作成していくことが大切です。

心理検査等の実施や専門家チーム等の専門家に相談する時は、必ず保護者の同意を得て行い、結果については保護者に報告してください。

### 作成の手順

#### 1 学年等

空欄の枠は就学前に作成する場合のものです。幼稚園・保育所名等を記入してください。学年の前に学校名を記入してください。

#### 2 作成日・作成者

枠内に学校名、主な作成者名を記入してください。作成者は、通常の学級の担任やコーディネーターなど複数の教員になっても構いません。

#### 3 生育歴・家族の状況・身体の状況

指導や支援に必要な事柄があれば記入します。乳幼児期の様子や行動の特徴は、本人の実情を理解する上で重要な資料となる場合があります。保護者の了解の上で、わかる範囲で記入してください。

#### 4 療育・相談歴・心理検査等

これまでに医療機関、福祉機関等で受けてきた療育や相談があれば、機関名と年月日を記入します。

また、WISC-III等の心理検査を受けていれば、その結果の概要と実施年月日を記入します。

#### 5 児童生徒の実態

特別な配慮に基づく支援を開始した時（校内委員会で協議した等）の様子について記入します。

現担任の気付きだけではなく、前担任、生徒指導主任、養護教諭、通級指導教室担当者等の意見も参考に、記入してください。複数の教員の判断が大切です。

#### 6 心理的及び医学的立場からの意見や支援

臨床心理士等の心理の専門家の所見があれば、これまでに受けた支援の内容について記入します。

医師の診断等を受けている場合には、その所見や投薬等があれば内容を記入します。

## 7 幼稚園・保育園からの引継事項

幼児期の集団での様子や他の子どもとのかかわりの様子が分かれば、記入します。

幼稚園や保育所でどのように過ごしてきたかは、子どもの成長に大きな影響を与えており、現在の実態を知る上で重要です。分かる範囲で無理のないように聞き取ります。

## 8 その他の機関からの意見や支援

児童相談所、他校の教員、地域コーディネーター等の所見があれば記入します。

なお、6、8については、専門家チームを活用することもできます。

## 9 保護者の願い、児童生徒の願い

保護者が当該児童生徒の将来についてどのような願いをもっているのか十分に聞き取り、記入します。また、児童生徒と話し合う中で、本人の希望が聞き取れたら、記入します。

適切な指導や必要な支援を考える際、保護者の意向を踏まえることは大変重要です。

## 10 進路や就職等に関する希望等

作成時点での将来に対する保護者や本人の見通しや希望を記入します。幼児期であれば就学先についての希望であるかも知れませんが、中学校（中学部）や高校（高等部）では進学、就職等に対する希望が記入されるかも知れません。

小学校（小学部）から中学校（中学部）への進学等の節目ごとに見直された時点で、追記していくことになります。

## 11 その他参考となる事項

参考となる事項があれば記入します。

## 12 長期目標

この様式では、小学校の下学年（1～3年）、小学校の上学年（4～6年）、中学校に分けて、目標を設定するよう示していますが、小学校の6年間や中学校までの9年間を見通した大きな目標を設定してもよいと思います。いずれにしても、長期的な見通しをもつことが必要です。

学習面、社会性、コミュニケーション、基本的な生活習慣、自己コントロールなど、児童生徒の実態に応じて、長期目標は決まってくると思います。

## 13 重点目標

当該児童生徒がその学年の間（1年間）に達成してほしい目標を設定します。長期目標に照らし、この1年間でどこまでできるようになってほしいかという視点で考えて作成します。

## 14 主な支援の内容・方法等

重点目標を達成するために行う主な支援の方法や指導内容等を記入します。これをもとに、詳しく内容や方法を具体化したものが、「個別の指導計画」です。

## 15 評価

評価は、児童生徒の変容に照らして、重点目標や主な支援の方法や内容について見直すものです。主観的にならないように、できるだけ客観的な事実を基に評価してください。

## 16 引継事項

小学校から中学校へ、中学校から高等学校等への進学は、児童生徒にとって大きな環境の変化であり、児童生徒の戸惑いも大きいものです。継続的に支援していく上で非常に重要となります。

この枠ではポイントを伝え、できる限り、しっかり話し合うことが必要です。

なお、小学校下学年から上学年へ引き継ぐ際や、中学部、高等部で特別な留意点があれば「特に留意する事項等」に記入します。

## その他

- データが流出しないようにする等の慎重な取扱いが必要です。
- パソコン等により様式を作成する場合、枠等は変更が可能です。

## 個別の教育支援計画

氏名	○ ○ ○ ○ ○	性別	○	生年月日	平成○○年○○月○○日
生育歴 家族の状況 身体の状況	<p><b>【記入内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生育歴（出生時の様子、乳幼児期の様子や行動の特徴、疾病歴等）</li> <li>・家族の状況（家族構成等）</li> <li>・身体の状況（病気、障害等）</li> </ul> <p>※ 指導及び支援に必要となる事項について、保護者の了解を得て、分かる範囲で記入します。</p> <p><b>【記入例】</b>            （生育歴）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出生時…在胎10ヶ月、体重2,000g、出生時仮死状態（家族の状況）</li> <li>・家族構成…父、母、姉、祖母（身体の状況）</li> <li>・右半身に麻痺があり、移動の際は介助が必要となる。</li> <li>・体温調節が困難であり、水分補給に留意する必要がある。</li> <li>・重度難聴であるが、発音は明瞭である。</li> </ul>				
療育・相談歴 心理検査等	<p><b>【記入内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関、福祉機関等での療育・相談歴（機関名、年月日）</li> <li>・心理検査の結果の概要と実施年月日</li> </ul> <p><b>【記入例】</b>            （療育・相談歴）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3ヶ月健診で○○○の診断を受け、○○病院に通院開始</li> <li>・○○病院受診後に児童相談所に相談し、療育手帳Bを取得</li> <li>・○年生から○年生まで、○○病院にて言語訓練（心理検査等）</li> <li>・WISC-III（VIQ○○、PIQ○○、FIQ○○）H○.○.○実施</li> </ul>				
児童生徒の実態 （指導開始時）	<p><b>【記入内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の状況</li> <li>・学習の状況</li> </ul> <p>※ 支援を開始した時（校内委員会で協議した等）の様子を記入します。            ※ 前担任、生徒指導主任、養護教諭、特別支援学級担当者等の意見も参考にするとともに、複数の教員で判断することが大切です。</p> <p><b>【記入例】</b>            （生活の状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題や教科書を忘れることが多いので、その都度確認が必要である。</li> <li>・遊びでのルールがよく理解できないので支援が必要だが、友達と楽しく遊ぶことができる。</li> </ul> <p>（学習の状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間をかければ文字を読むことができる。</li> <li>・簡単な文章であれば、そばについて一緒に読むことで、内容を理解することができる。</li> <li>・筆算では桁取りの補助線を入れると桁を間違えずに計算できる。</li> <li>・指を使えば、簡単な足し算、引き算の計算ができる。</li> <li>・数学の授業では、補助教員による学習支援や放課後担任による個別指導を行っている。</li> </ul>				



<p>心理的・医学的な立場からの意見や支援</p>	<p>【記入内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理士等の心理の専門家の所見及びこれまでに受けた支援</li> <li>医師の診断を受けている場合は、その所見や投薬等</li> </ul> <p>※ 専門家チームを活用して意見や支援を得ることもできます。</p> <p>【記入例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇病院〇〇医師から「〇〇〇」の診断（H〇.〇.〇） 発作が断続的に起こることがあり、発作時は座薬使用</li> <li>臨床心理士〇〇（H〇.〇.〇） 不適切な言動に対しては、分かりやすく丁寧な説明や指導を行うことが大切</li> </ul>
<p>幼稚園・保育園からの引継事項</p>	<p>【記入内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集団生活全般の様子</li> <li>他の子どもとのかかわりの様子</li> </ul> <p>※ 分かる範囲で、幼稚園、保育所及び保護者等から聴き取ります。</p> <p>【記入例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>じっとしていることが苦手だが、昆虫図鑑をじっと見ているなど、興味のあることには集中できる。</li> <li>注意を引くものがあると、急に園庭に出て行くこともある。</li> <li>ブランコや砂場で一人で遊ぶことが好きで、自分から友達を誘うことは少ないが、誘われると一緒に遊ぶことができる。</li> </ul>
<p>その他の機関からの意見や支援</p>	<p>【記入内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童相談所、他校の教員、地域コーディネーター等の所見</li> <li>通級指導教室等での指導の状況</li> </ul> <p>※ 専門家チームを活用して必要な情報を得ることもできます。</p> <p>【記入例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇児童相談所（H〇.〇.〇） 軽度の知的障害。学習意欲があり、本児に合った課題を設定して達成感を味わわせ、意欲を維持することが大切</li> <li>H〇.〇から〇〇小通級指導教室で、週〇時間、構音に関する指導を継続</li> </ul>
<p>保護者の願い 児童生徒の願い</p>	<p>【記入内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の当該児童生徒についての願い（学習面、社会性、コミュニケーション、健康、地域での生活等）</li> <li>本人の願い ※ 聞き取ることができた場合記入、記入します。</li> </ul> <p>【記入例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>算数科、特に計算に興味をもち得意としているので、もっと伸ばしてほしい。</li> <li>社会のルールやマナーを身に付け、社会的に自立してほしい。</li> <li>将来も地域の中で友達とかかわりながら生活させたい。</li> </ul>
<p>進路や就職等に関する希望等</p>	<p>【記入内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作成時点での将来に対する保護者や本人の見通しや希望（就学先、進学及び就職等についての希望）</li> </ul> <p>※ 進学等の節目ごとに見直し、追加記入をします。</p> <p>【記入例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本人のよさを伸ばし、それが職業につながっていくようにしたい。</li> <li>卒業後は、通所施設の利用を考えている。</li> </ul>
<p>その他参考となる事項</p>	<p>※ 支援をする上で、参考となる事項があれば記入します。</p> <p>【記入例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〇年生～〇年生      〇〇福祉施設利用</li> <li>〇年生～              〇〇小学校と居住地間交流を実施</li> </ul>



**就学に向けての引継ぎ事項・留意点等**

※ 校内の事例研究等では、表題「就学に向けての引継ぎ事項・留意点等」を「幼児児童生徒の実態等」と変更し、前2ページの集約版として簡易に作成して使用することも可能です。

**【記入例】**

- ・新しい環境に慣れるまでに時間がかかり、情緒が不安定になることもあるので、本人の状態に合わせて学校生活が無理なく送れるように留意する必要がある。
- ・幼稚園で友達とかかわることで様々な成長が見られた。小学校でも交流学習や学校行事等の中での友達とのかかわりを大切にしてほしい。
- ・具体的な場面を見つけては、一つ一つ繰り返し指導することで、順番を守るなどの集団のルールや約束が守れるようになってきた。

学習面、社会性、コミュニケーション、基本的な生活習慣、自己コントロールなど、幼児児童生徒の実態に応じ、長期的な見通しを持って作成します。

長期目標	<p><b>【記入例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み、書き、計算の基礎的な力を身に付ける。</li> <li>・友達や教師との交流や集団活動を通して社会性を伸長する。</li> </ul>
------	--

	重点目標	主な支援の方法・内容等	評 価
小1年	<p>長期目標に照らして、その学年の間（1年間）に達成してほしい目標を設定します。</p>	<p>重点目標を達成するために行う主な支援の方法や指導内容等を記入します。</p>	<p>幼児児童生徒の変容に照らして、重点目標や主な支援の方法や内容について見直すものです。主観的にならないように、できるだけ客観的な事実を基に評価することが大切です。</p>
小2年	<p><b>【記入例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み、書き、計算の練習を意欲的に続けて行う。</li> <li>・相手や場に応じた言葉づかいができる。</li> <li>・友達と学習や遊びを通して仲良くかかわることができる。</li> </ul>	<p><b>【記入例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・到達可能な課題提示、課題達成時のシール等を使った称賛等で、成就感を味わわせる。</li> <li>・日常生活の場面を取り上げたロール・プレー等で対処能力を身に付けさせる。</li> <li>・学校行事等により、教師や友達との交流を深めたり、集団行動を学んだりさせる。</li> </ul> <p>(H〇〇.〇.〇 追記)</p>	<p><b>【記入例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シールが増えることを楽しみにし、進んで読み、書き、計算に取り組んだ。読む力が付いてきたこともあり自分で本を読んだり、読み聞かせを要求したりすることが増えてきた。</li> <li>・運動会、学習発表会等の学校行事では、友達とのかかわりを楽しみ、自分から友達に声をかける様子も見られるようになった。場に応じた言葉づかいを生活場面の中で具体的に指導している。</li> </ul>
小3年			

**特 に 留 意 す る 事 項 等**

※ 関係機関等との連携、指導方法についての特記事項、健康上の配慮事項等を記入します。

**【記入例】**

- ・保護者の了解を得て、〇〇病院の担当者〇〇〇と〇月〇日に、学校での指導上の配慮事項について相談した。その際、以後も随時相談することを確認した。
- ・指示が十分聞き取れなかったり、理解できなかったりする場合、自分から意思表示ができないこともあるので、個別に確認をする必要がある。
- ・毎日〇〇時、〇〇時に薬を服用。発作が起こった場合は、すぐに保護者と連絡をとること。
- ・保護者と担任の連絡ノートを作成し、学校・家庭生活の様子や支援等について情報交換をおこなった。

(別紙 1)

○学校（○学部）への引継ぎ事項		
記入年月日	平成 ○○ 年 ○○ 月 ○○ 日	保護者印
記入者氏名印	○ ○ ○ ○ ○ 印	
引継ぎ者氏名印	○ ○ ○ ○ ○ 印	
<p>※ 継続して支援していくためのポイントを伝え、進学先としっかり話し合うことが必要です。 記入する項目は、学習及び生活についての支援、健康の保持についての支援、家庭及び関係機関との連携等、幼児児童生徒の実情に応じて取り上げます。</p> <p>【 記入例 】</p> <p>(学習についての支援)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>達成可能な課題を設定し、達成時にシールを与えて称賛したり、複数の課題から本児自身が選択して取り組めるようにしたりする方法が、学習に対する動機付けを高める上で効果的だった。</li><li>ドリル学習を繰り返すことで、○年生までの新出漢字はほぼ習得でき、自分から物語を読むようになった。思ったことや考えたことを文章に書くことは少し苦手である。</li><li>昆虫の観察が大好きで、知識も豊富である。学級新聞で昆虫の不思議な生態を紹介し、周囲の子どもから称賛を受け、大きな自信になった。</li><li>個別に対応する時間を計画的に確保し、本児に合ったペースで学習することで、精神的にリラックスすることができ、また、「できた」という体験の積み重ねが、学習意欲の向上につながった。</li></ul> <p>(生活についての支援)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>まだ特定の友達とのかかわりではあるが、仲間意識が見られるようになり、集団で活動することができるようになってきた。今後も現在の友人関係をもとにし、より多くの友達へとかかわりを広げていくことが、社会性の伸長につながると思われる。</li><li>学校行事等で、多くの児童と活動する際には、情緒が不安定になることもあるが、参加する内容や時間を工夫することで、周囲の児童の理解や他の教師の協力を得て、参加できるようになってきている。少しでも多くの時間、みんなと同じ場にいることができるように支援する必要がある。</li><li>具体的な生活場面の中で、状況に応じた適切な言動の仕方等を繰り返し指導することで、友達とのトラブルが著しく減り、情緒が安定してきた。</li></ul> <p>(健康の保持についての支援)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○○の発作は、○年生以降はほとんどなく、薬を昼食後服用しているが、それ以外、日常の対応は必要ない。ただし、緊急時の連絡先や関係医療機関を確認しておく必要がある。</li><li>○○病の関係で、水分補給に留意する必要がある。午前中の業間時間、昼食時等に、必ず決まった量の水分を補給するようにさせる。</li></ul> <p>(家庭との連携についての支援)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>学校で学習したことを家庭でも確認し、保護者が学習成果を称賛することが、「できる」という自信を深めることにつながり効果的だったので、今後も継続して家庭での支援が望まれる。</li></ul> <p>(関係機関との連携についての支援)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>保護者の理解と協力を得て、○○病院での作業療法の様子を見学することができた。本児の課題を理解するとともに、学校での自立活動等の指導目標の設定や指導方法・内容を考える上で大変参考になった。</li></ul> <p>(その他の支援)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>中学校卒業後は、特別支援学校高等部への進学を本人、保護者が希望しており、○○特別支援学校に保護者と担任が、H○.○.○に学校見学を行った。</li></ul>		

(別紙2)

関係機関等と連携した支援体制

(児童生徒氏名) ○ ○ ○ ○ ○

男 (女)

(学年)

部 ○ 年

〒○○○-○○○○

(住所) ○○○市○○○町○○番地○○号

Tel ○○○○-○○-○○○○

<学校>

○○○立○○○○○ 学校

Tel ○○○○-○○-○○○○

担任 ○ ○ ○ ○ ○

【医療】

※かかりつけの医療機関、主治医

○○病院○○○○○科

Tel ○○○○-○○-○○○○

担当 ○ ○ ○ ○ ○

※ 変更があった場合は、随時追記します。

(H.O.O.O 追記)

【地域】

※日常生活でお世話になっている近所の人、民生委員等

【福祉】

※かかわりのある市町の福祉課等と担当者

※利用している療育施設、福祉施設と担当者等

【労働】

※進路に関して相談しているハローワーク等と担当者

【その他】

※かかわりのある児童相談所、市町教育委員会と担当者

※日ごろかかわりのある別居の祖父母、前籍校、出身校の教員等

※教育研修所等の相談機関と担当者

(別紙3)

事業所・福祉施設等への引継ぎ事項等					
記入年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日			保護者印	
記入者氏名印	〇〇〇〇〇 ㊟				
引継ぎ者氏名印	〇〇〇〇〇 ㊟				
氏名	〇〇〇〇〇	性別	〇	生年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇
住所	〇〇〇市〇〇〇町〇〇番地〇〇号			電話番号	〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇
保護者氏名	〇〇〇〇〇	手帳の種類	療育手帳〇 (H〇.〇交付)		
出身校	〇〇〇立 〇〇〇〇〇 学校				
住所	〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇〇市〇〇〇町〇〇番地〇〇号		Tel (〇〇〇〇) -〇〇-〇〇〇〇		
【現場実習（校内実習）等の体験記録】					
時期・期間	実習先	実習内容・体験時の様子			
1 〇年〇月 〇ヶ月	〇〇〇〇〇〇〇	【記入例】			
2		・ハブの組立て 手先は器用で仕事が速いが、作業時間が長くなると、やや注意力が散漫になることもあった。			
3		・加工製品の箱詰め 仕事は丁寧でミスも少ない。元気のよいあいさつができる。			
本人の希望等	保護者の評価	実習先の評価	必要な対応		
【記入例】 ・機械部品の組立ての仕事をしたいと思った。	【記入例】 ・幼い頃から機械に興味があり、充実した実習を行うことができた様子だった。	【記入例】 ・30分位であれば、仕事も正確にできていた。今後は、継続して集中力を持続することが課題である。	【記入例】 ・作業の正確さや根気強さを養うための活動が必要である。		
【将来の生活について】					
進路先住所	事業所名 「 〇〇〇〇〇〇〇〇〇 」 Tel(〇〇〇〇)-〇〇-〇〇〇〇 〇〇〇市〇〇〇町〇〇番地〇〇号				
必要な支援	【記入例】 ・家庭で家事を手伝い、日常生活に必要な技能を身に付ける。 ・運動不足を補い、健康を維持するために身障者スポーツセンターで週に1、2回スポーツをする。				
希望・要望	【記入例】 ・就職後は、家を出て寮、グループホーム、アパート等で自立した生活をしたい。 ・友人の輪を広げ、余暇を有効に活用したい。				